

## 平成24年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」審査講評

全国農協青年組織協議会が主催する平成24年度「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」には、全国31都道府県から73作品（看板部門59点、アート部門14点）の応募があり、平成25年1月18日（金）に東京・大手町のJAビルで審査委員会を開催しました。作品募集テーマは昨年同様「農業のある地域づくりの大切さを地域住民へアピールできるもの」とし、インパクト、メッセージ力、デザイン（手づくり感）などの視点から審査を行いました。

審査委員会では、全国消費者団体連絡会、JA全農、JA共済連、農林中央金庫、日本農業新聞、家の光協会、農協観光、JA全中の各団体からお集まりいただいた広報担当の職員など8名の委員で審査を行いました。審査委員長は互選により、全国各地の青年部活動取材し、記事として取り上げていただいている雑誌「地上」の編集長を務められている家の光協会・神 菌 太 郎氏が選ばれました。

審査の結果、最優秀賞には「JA津軽みらい青年部 田舎館支部（青森県）」の作品が選ばれました。「わあ、この村も人も大好きだァ」というメッセージと優しさがあふれている絵の関係性が素晴らしく、「農業ある地域づくりの大切さ」というテーマを上手く捉え訴えかけている点が高く評価されました。特に、地域も農業も「大好き」といメッセージが分かりやすく、絵にインパクトがありながらも、親しみやすさ、手づくり感があり、全体のデザイン構成も含め完成度が高い作品です。それゆえ、看板を見た人が、地域も農業も「大好き」というメッセージに共感しやすく、メッセージが温かく伝わってくるのが最優秀賞に相応しいと評価されました。

アート部門賞には「JAささかみ青壮年部（新潟県）」の作品が選ばれました。おいしそうにおにぎりを頬張る子供、地域の豊かな自然の様子などが温かみのあるデザインであり、「農業のある地域」が自然に伝わってくる点が高く評価されました。また、ブロック塀に大きく描かれており、地域住民へのメッセージ効果は、その作成過程も含め、非常に強いものとなっています。加えて、2年にわたって盟友が作業を分担して作成したとのことであり、自分たちの想いを伝えるという青年部の熱い気持ちが伝わる作品であり、アート部門賞に相応しいと評価されました。

以下、特別賞について講評を申し上げます。

○ 全国消費者団体連絡会賞「JAならけん青壮年部 五條・吉野支部（奈良県）」  
看板としては異色のシンプルで色を押さえ、素朴な温かさを表現していることが、逆に「旬をたべる喜び」というメッセージを強調しており、看板を使ったアピール戦略として成功している点が高く評価されました。看板を見た人に、地域の食の大切さがしっかりと伝わる素晴らしい作品です。

○ J A全農賞「J Aみやぎ仙南川崎地区青年部（宮城県）」

看板としてのインパクト、分かりやすさ、全体構成のバランス感覚が優れており、安全でおいしい食を届けるという強いメッセージがはっきりと伝わってくる点が評価されました。また、看板を見た人が、思わず地元の牛肉を食べたくなるような気分になる秀でたデザインの作品です。

○ J A共済連賞「J Aなすの青年部 黒磯支部（栃木県）」

看板の大きさ、ロードサイドという設置場所、さらに夜間はライトアップをしてアピールするという点で、看板という表現方法を最大限に利用している点が評価されました。「農業でみんな幸せに」という地域の子供の想いを上手く取り上げ、手づくり感とメッセージ力のある作品となっています。

○ 農林中央金庫賞「J A福岡市花畑青年部（福岡県）」

「私も地球も活着ている」というメッセージとカラフルな色使いが、農業の楽しさや大切さを訴えかけてくる点が評価されました。看板を見た人が元気になるような作品であり、都市型農協の中で農業の理解を深めようとする熱い想いを感じる作品です。

○ 日本農業新聞賞「J A長門大津青壮年部（山口県）」

直売所での設置という設置場所の特性を活用した看板であり、子供が見ても「命を食べる」というメッセージがしっかりと伝わる点が評価されました。農畜産物を購入に来た地域の方に対して、農業の大切さ、食の大切さをピンポイントで伝えることのできている作品です。

○ 地上賞「J Aあまみ青壮年部 徳之島支部（鹿児島県）」

メッセージとデザインが素晴らしく、目にした人の足を止めるような強い想いを感じる点が評価されました。看板としてはメッセージが長いものの、J A店舗の入り口に設置していることもあり、組合員や地域の方が足を止めることを計算して作成している点も評価されました。

○ 農協観光賞「J Aごとう青年部 崎山支部（長崎県）」

青年部らしいシンプルなメッセージとデザインが、「地域の農業を支える」という想いを明確に訴える作品となっている点が評価されました。若手農業者の結束や多様なメンバーによる自己の高めあいという青年部の意義さえも感じる作品となっており、青年部の結束の強さを感じる作品です。

○ J A全中賞「J A十和田おいらせ農協青年部 十和田支部藤坂分会（青森県）」

シンプルでデザイン性が優れている点が評価されました。「No Agriculture, No Culture」というメッセージを伝えるということに主眼が置いた上で、デザインなどの全体が構成されており、看板の意義をしっかりと認識されている作品です。

今回のコンクールに寄せられた作品も、その一つ一つが個性的で、地域の状況をしっかりと踏まえながら制作されており、制作に携わった盟友の強い想いが伝わってくる作品ばかりでした。特に、メッセージとデザインのバランスが取れた作品が多く、看板としての完成度が昨年よりも高かったように思われます。

また、看板部門・アート部門にかかわらず「メッセージをどのように伝えているか」という点が評価のポイントとなりました。メッセージそのものやデザインは言うまでもなく、設置場所(通行人からの見え方)、設置期間、大きさ、設置方法など、外部空間の中でどのようにメッセージを伝えているのかという看板としての本質的な部分が入賞の決め手となりました。今後、作成するにあたっては、ぜひ作品のロケーションを十二分に考慮して作成に取りかかっていたいただきたいと思います。

一枚の看板が、道行く人へ食と農業への理解を深めてもらうきっかけとなり、さらにその作成過程を通じて青年部の結集が今後ますます強まることを切に願っています。今後も本コンクールの開催が看板制作の励みになること、そして青年部の看板が全国各地に建てられ、日本農業の情報発信源となり続けると確信しています。